



# 公立世羅中央病院だより

No.52

## 救急外来受診の手引き(5) — 骨折・脱臼編 —

公立世羅中央病院 整形外科部長 來嶋也寸無

今回は整形外科編ということで主に外傷による「骨折」と「脱臼」について述べたいと思います。

### ●骨折

まず人間は硬い骨で骨格が形成され、そのまわりを筋肉や靭帯、腱、血管、神経などで構成され人体を作っています。「骨折」が起こると骨による支持性がなくなるため「変形」したり、骨折部からの内出血により「腫れ」たりします。当然、骨片と骨片が動くことで「痛み」を生じます。このような場合は「骨折」が疑われますので救急外来を受診すべきです。骨折の回復やシーネ固定などの応急処置を受けて下さい。しかしながら「骨折」はなく「打撲」や「捻挫」だけでも当然人間は痛みを感じるため、歩けなくなったり関節が曲げられなくなったりします。「骨折」と「打撲」・「捻挫」の鑑別はレントゲンをはじめとする画像

検査や触診をしないと診断できません。痛みが我慢できないほどであれば休日夜間でも受診をお勧めしますが、我慢できる程度であれば日を改めて整形外科を受診していただき、レントゲンだけでなく必要に応じてCTやMRIなどの詳しい検査を受けられた方が誤診されることもなく安全だと思えます。

### ●脱臼

もつひとつ外傷による重要な疾患として「脱臼」があります。「脱臼」とは骨と骨を繋いでいる靭帯が損傷することによって「関節がはずれる」状態を言います。外見的には「骨折」と同様に「変形」や「腫れ」を生じ「痛み」ます。救急外来を受診し脱臼と診断された場合は速やかに整復してもらうべきです。脱臼を整復せずに数日間も放置していると、整復が難しくなったり血行障害やしびれなどの神経症状が出てき

たりしますので、早期の受診をお勧めします。

### ●「変形」「腫れ」「痛み」は

早めの受診を

いずれにおいても「変形」の症状に加え、「腫れ」「痛み」を生じている場合は「骨折」や「脱臼」が疑われますので早期に受診して下さい。動脈損傷による血行障害(例えば、指先などが白くなってくる)や運動麻痺や知覚障害などの神経傷害(例えば、「手足を動かさそうと思っても力が入らない」や「指先、足先がしびれている」など)を呈しているまればな症例では緊急手術となる可能性もあります。「強く打って痛みはあったけどその後すぐに動かすことができた」とか「不安なので一応レントゲンで見てもらっておきたい」といった場合や、「実は数日前から痛かった」場合などは夜間休日でも改めて整形外科を受診されても治療できないことはありませんので余裕を持って受診してください。